



平成 24 年 2 月 27 日

各 位

会 社 名 オリンパス株式会社  
代表者名 代表取締役社長執行役員 高山 修一  
(コード：7733、東証第 1 部)  
問合せ先 広報・IR 室長 南部 昭浩  
(TEL. 03-3340-2111(代))

## 新任取締役及び監査役の候補者の決定について

当社は、本年 1 月 17 日付適時開示「指名委員会の設置に関するお知らせ」でお知らせいたしましたとおり、臨時株主総会において選任すべき取締役及び監査役の候補者を決定するため、指名委員会を設置し、同委員会の委員として当社社外取締役 2 名（林田康男、来間紘）を選任いたしました。指名委員会におきましては、候補者となりうる多数の方々について検討し、面談その他の方法により慎重に審査いたしました。さらに、指名委員会による審査に基づく候補者案につきましては、経営改革委員会におきましても、多数の当社ステークホルダーの皆様から寄せられたご意見を参考にしてご審議・ご指導いただくとともに、指名委員会が作成した候補者案につきご承認をいただきました。

本日、当社取締役会は、かかる指名委員会及び経営改革委員会のご判断を尊重し、両委員会により精選された候補者を本年 4 月 20 日開催予定の臨時株主総会に付議すべき者として選任することを決議いたしましたので、以下のとおりお知らせします。

なお、現任の取締役及び監査役は、全員、臨時株主総会終結時をもって辞任する意向を表明し、本日辞任届を当社に提出いたしましたので、併せてお知らせいたします。

## 記

### 1. 新任代表取締役候補者（臨時株主総会終結後の取締役会において選任予定）

代表取締役社長執行役員 笹 宏 行 （現 当社執行役員）

### 2. 新任取締役候補者

|                        |         |  |
|------------------------|---------|--|
| 取 締 役 会 長<br>(取締役会 議長) | 木 本 泰 行 | (元 株式会社三井住友銀行 専務取締役兼専務執行役員、<br>現 株式会社日本総合研究所 代表取締役社長兼最高執行役員) |
| 取 締 役                  | 藤 塚 英 明 | (元 株式会社三菱東京 UFJ 銀行 執行役員、<br>現 千歳興産株式会社 取締役社長)                |
| 取 締 役                  | 竹 内 康 雄 | (現 当社執行役員)   |
| 取 締 役                  | 林 繁 雄   | (現 当社執行役員)   |
| 社 外 取 締 役              | 後 藤 卓 也 | (元 花王株式会社 取締役会会長)  |
| 社 外 取 締 役              | 蛭 田 史 郎 | (現 旭化成株式会社 最高顧問)   |
| 社 外 取 締 役              | 藤 田 純 孝 | (元 伊藤忠商事株式会社 代表取締役副会長)                                       |
| 社 外 取 締 役              | 西 川 元 啓 | (弁護士、元 新日本製鐵株式会社 常務取締役)                                      |
| 社 外 取 締 役              | 今 井 光   | (元 株式会社レコフ 代表取締役社長)  |
| 社 外 取 締 役              | 藤 井 清 孝 | (現 ベクタープレイス・ジャパン株式会社 代表取締役社長)                                |

### 3. 新任監査役候補者

|          |        |                                    |
|----------|--------|------------------------------------|
| 常勤監査役    | 斎藤 隆   | (現 当社常務執行役員)                       |
| 常勤監査役    | 清水 昌   | (現 日本生命保険相互会社 財務審査部部长)             |
| 監査役(非常勤) | 名古屋 信夫 | (公認会計士、元 みずず監査法人 代表社員)             |
| 監査役(非常勤) | 名取 勝也  | (弁護士、<br>元 日本アイ・ビー・エム株式会社 取締役執行役員) |

### 4. 退任予定取締役

|       |        |
|-------|--------|
| 代表取締役 | 高山 修一  |
| 取締役   | 森 篤治人  |
| 取締役   | 鈴木 正孝  |
| 取締役   | 柳 澤 一向 |
| 取締役   | 塚 谷 隆志 |
| 取締役   | 渡 邊 和弘 |
| 取締役   | 西 垣 晋一 |
| 取締役   | 川 又 洋伸 |
| 社外取締役 | 林 田 康男 |
| 社外取締役 | 来 間 紘一 |
| 社外取締役 | 林 純一   |

### 5. 退任予定監査役

|          |        |
|----------|--------|
| 常勤監査役    | 今井 忠雄  |
| 監査役(非常勤) | 島 田 誠  |
| 監査役(非常勤) | 中 村 靖夫 |

### 6. 新任取締役及び監査役候補者略歴

別紙1をご参照ください。

### 7. 新任取締役及び監査役の候補者の決定に関する声明の発表について

当社代表取締役社長執行役員高山修一、取締役候補者笹宏行氏及び指名委員会委員は、本日、新任取締役及び監査役の候補者の選任に関しまして、別紙2のとおり声明を発表いたしましたので、お知らせいたします。

以 上

## 新任役員略歴

### 取締役会長

氏名 (きもと やすゆき)  
木本 泰行



生年月日 1949年（昭和24年）2月26日生  
 学歴 1971年3月 京都大学経済学部 卒業  
 出身地 大阪府  
 略歴 1971年4月 株式会社住友銀行入行  
 1998年6月 同 取締役  
 1999年6月 同 執行役員  
 2001年4月 株式会社三井住友銀行 執行役員  
 2002年6月 同 常務執行役員  
 2004年4月 同 常務取締役兼常務執行役員  
 2005年6月 同 専務取締役兼専務執行役員  
 2006年5月 株式会社日本総合研究所 代表取締役社長兼最高執行役員（現任）

### 代表取締役社長

氏名 (さき ひろゆき)  
笹 宏行



生年月日 1955年（昭和30年）9月14日生  
 学歴 1982年3月 早稲田大学大学院理工学研究科 機械工学専攻修士課程 修了  
 出身地 東京都  
 略歴 1982年4月 オリンパス光学工業株式会社（現オリンパス株式会社）入社  
 1987年3月 ニューヨークへ赴任  
 2001年4月 内視鏡事業企画部長  
 2005年4月 オリンパスメディカルシステムズ株式会社 第1開発本部長  
 2007年4月 同 マーケティング本部長（現任）  
 2007年6月 オリンパス株式会社 執行役員（現任）  
 オリンパスメディカルシステムズ株式会社 取締役（現任）  
 所有株式数 5,573株

## 取締役

氏名 藤塚 英明 (ふじづか ひであき)

生年月日 1955年 (昭和30年) 9月1日 生

略歴 1980年 株式会社三菱銀行入行  
2007年 株式会社三菱東京UFJ銀行 執行役員  
2010年 千歳興産株式会社 取締役社長 (現任)

氏名 竹内 康雄 (たけうち やすお)

生年月日 1957年 (昭和32年) 2月25日 生

略歴 1980年 オリンパス光学工業株式会社 (現オリンパス株式会社) 入社  
2005年 オリンパスメディカルシステムズ株式会社 統括本部長  
2009年 Olympus Europa Holding GmbH 取締役  
オリンパス株式会社 執行役員 (現任)  
2011年 Olympus Europa Holding GmbH 取締役会長 (現任)  
2012年 コーポレートセンター長付 (現任)

氏名 林 繁雄 (はやし しげお)

生年月日 1957年 (昭和32年) 8月21日 生

略歴 1981年 オリンパス光学工業株式会社 (現オリンパス株式会社) 入社  
2008年 同 伊那工場長  
2009年 同 執行役員 (現任)  
2010年 同 ものづくり革新センター伊那工場長兼製造技術本部長 (現任)  
2011年 長野オリンパス株式会社 代表取締役社長 (現任)

## 社外取締役

氏名 後藤 卓也 (ごとう たくや)

生年月日 1940年 (昭和15年) 8月19日 生

略歴 1964年 花王石鹼株式会社 (現花王株式会社) 入社  
1990年 同 取締役  
1991年 同 常務取締役  
1996年 同 専務取締役  
1997年 同 代表取締役社長  
2004年 同 取締役会会長

氏名 蛭田 史郎 (ひるた しろう)

生年月日 1941年 (昭和16年) 12月20日 生

略歴 1964年 旭化成工業株式会社 (現旭化成株式会社) 入社  
1997年 同 取締役  
1999年 同 常務取締役  
2001年 同 専務取締役  
2002年 同 取締役副社長  
2003年 同 代表取締役社長  
2010年 同 最高顧問 (現任)

氏 名 藤田 純孝 (ふじた すみたか)

生年月日 1942年 (昭和 17年) 12月 24日 生

略 歴 1965年 伊藤忠商事株式会社入社  
 1995年 同 取締役  
 1997年 同 常務取締役  
 1998年 同 代表取締役常務取締役  
 1999年 同 代表取締役専務取締役  
 2001年 同 代表取締役副社長  
 2006年 同 代表取締役副会長  
 2008年 同 相談役  
 古河電気工業株式会社 社外取締役 (現任)  
 2009年 日本板硝子株式会社 社外取締役 (現任)  
 2010年 NKSJ ホールディングス株式会社 社外取締役 (現任)  
 2011年 伊藤忠商事株式会社 理事 (現任)

氏 名 西川 元啓 (にしかわ もとよし)

生年月日 1946年 (昭和 21年) 1月 1日 生

略 歴 1968年 八幡製鐵株式会社 (現新日本製鐵株式会社) 入社  
 1997年 同 取締役  
 2001年 同 常務取締役  
 2003年 同 常任顧問 (チーフリーガルカウンセル)  
 2007年 同 顧問  
 2011年 弁護士登録  
 野村綜合法律事務所 入所 (現任)

氏 名 今井 光 (いまい ひかり)

生年月日 1949年 (昭和 24年) 7月 23日 生

略 歴 1974年 山一證券株式会社入社  
 1986年 モルガン・スタンレー証券会社入社  
 1993年 メリルリンチ証券株式会社入社  
 1999年 メリルリンチ日本証券株式会社 副会長  
 2007年 株式会社レコフ 取締役副社長  
 2008年 同 代表取締役社長

氏 名 藤井 清孝 (ふじい きよたか)

生年月日 1957年 (昭和 32年) 2月 10日 生

略 歴 1981年 マッキンゼー・アンド・カンパニー入社  
 1986年 C Sファースト・ボストン入社 (ニューヨーク)  
 1993年 日本ブーズ・アレン・ハミルトン株式会社 取締役副社長  
 1997年 日本ケイデンス・デザイン・システムズ社 代表取締役社長  
 2000年 SAP ジャパン株式会社 代表取締役社長  
 2006年 ルイ・ヴィトン・ジャパングループ株式会社 代表取締役社長  
 2008年 ベタープレイス・ジャパン株式会社 代表取締役社長 (現任)

## 監査役

氏名 齋藤 隆 (さいとう たかし)  
生年月日 1952年 (昭和27年) 2月11日 生  
略歴 1976年 オリンパス光学工業株式会社 (現オリンパス株式会社) 入社  
2005年 同 執行役員  
2006年 同 ビジネスサポート本部長  
2007年 会津オリンパス株式会社 代表取締役社長  
2010年 オリンパスメディカルサイエンス販売株式会社 代表取締役社長 (現任)  
オリンパス株式会社 常務執行役員 (現任)

氏名 清水 昌 (しみず まさし)  
生年月日 1957年 (昭和32年) 12月19日 生  
略歴 1982年 日本生命保険相互会社入社  
2007年 同 財務審査部部長 (現任)

氏名 名古屋 信夫 (なごや のぶお)  
生年月日 1945年 (昭和20年) 1月30日 生  
略歴 1968年 公認会計士後藤岩男事務所 (後にみすず監査法人) 入所  
1970年 公認会計士登録  
1971年 税理士登録  
1978年 新光監査法人 (後にみすず監査法人) 社員  
1989年 中央新光監査法人 (後にみすず監査法人) 代表社員  
2006年 なごや公認会計士事務所 所長 (現任)  
2009年 株式会社コア 監査役 (現任)

氏名 名取 勝也 (なとり かつや)  
生年月日 1959年 (昭和34年) 5月15日 生  
略歴 1986年 榊田江尻法律事務所 (現西村あさひ法律事務所) 入所  
1990年 Davis Wright Tremaine 法律事務所 入所  
1992年 Wilmer, Cutler & Pickering 法律事務所 入所  
1993年 エッソ石油株式会社 入社  
1995年 アップルコンピュータ株式会社 入社  
1997年 サン・マイクロシステムズ株式会社 取締役  
2002年 株式会社ファーストリテイリング 執行役員  
2004年 日本アイ・ビー・エム株式会社 取締役執行役員  
2010年 同 執行役員

以 上

平成24年2月27日

関係各位

臨時株主総会に提案する役員候補者の決定等について

オリンパス株式会社

代表取締役社長執行役員 高山 修一

取締役（指名委員会委員） 林田 康男

取締役（指名委員会委員） 来間 紘

執行役員 笹 宏行

## 1 役員候補者の決定及び社長就任予定者について

当社は、本日開催の取締役会において、平成24年4月20日開催予定の臨時株主総会に議案として提出する取締役、及び監査役の候補者を決定しました。候補者の氏名及び略歴は別紙1のとおりです。詳しくは指名委員会委員を務めた来間取締役が後ほど御説明します。

私の後任となる新社長は臨時株主総会直後の取締役会で正式に決定することになりますが、当社では、本日決定した候補者の皆様に予めご相談し、現在当社執行役員である笹宏行が就任することを想定しております。本日、笹はこの会见到同席しておりますので、後ほどご挨拶を申し上げます。

## 2 役員候補者の決定方法

本日発表した役員候補者は、これまで当社が公表してきた仕組みとプロセスに沿って決定しました。すなわち、当社取締役会は、まず、本年1月16日、指名委員会を設置し、私ども執行部から独立している利害関係のない社外取締役2名を委員としました。指名委員会には、候補者となりうる多数の方々について検討し、面談その他の方法により慎重に審査を続けていただきました。さらに、指名委員会の審査の結果は、

社外の有識者からなる経営改革委員会に提案されました。経営改革委員会では、役員候補者の指名に限らず、当社の経営全般につき重要事項をご審議いただいておりますが、その一環として、指名委員会による提案についても、多くのステークホルダーから寄せられたご意見を参考にして、ご審議・ご指導をいただきました。このような過程を経て、最終的に指名委員会が経営改革委員会に提示した案を経営改革委員会にご了承いただきました。そして本日の取締役会に上程のうえ決議し、正式に候補者として決定した次第です。

このように二段階の過程を経た理由は、選考対象者の抽出、選考対象者から候補者への選定、及び最終判断に、現体制の忒意が一切入らない透明性の高い手続きを確保するとともに、ステークホルダーの皆様のご意見を偏りなく反映させやすい手続きとするためです。こうした手続きにより、今般の不祥事とはまったく関係のないフレッシュな方々を選んで、株主を始めとするステークホルダーの皆様にご信頼いただける布陣とすることができたのではないかと存じます。

### 3 役員候補者の紹介及び選考理由

まず、指名委員会が指名した社内取締役5名の簡単な紹介をさせていただきます。

最初に新任の代表取締役候補として、笹宏行（ささ・ひろゆき）氏を紹介させていただきます。笹氏は56歳、これまで当社において長年内視鏡の開発部門に携わり、直近では執行役員兼医療部門のマーケティング本部長として、主力事業である医療事業分野の開発から製造販売まで全般的に携わってきました。また、笹氏は、数年間の海外赴任経験や海外当局との折衝等の経験もあり、グローバルな視点を持った当社の医療事業を担う次世代のリーダーとして目されていました。笹氏は、社外から来られたそうそうたる取締役メンバーと比べると経営経験に乏しいのではないかという指摘もありますが、冷静沈着で物怖じせず、周りの意見をよく聞きながら着実に実行していくという点に関して、極めて優れた資質をお持ちであると数度にわたる面談を通じて感じることができました。今後、社外からの取締役の皆さんと議論をたたかわせながら経営の神髓をつかみ取り、グループ会社含め約4万人弱の従業員を抱える当社の経営者として歩んでいただきたいと願っています。笹氏には後ほどご本人より挨拶いただきます。

取締役会長候補となるのが、木本泰行（きもと・やすゆき）氏、63歳です。木本氏は、当社のメインバンクである三井住友銀行の専務取締役を務められ、現在は株式会

社日本総合研究所の代表取締役社長であります。木本氏を取締役会長候補に選定したのは、三井住友銀行専務、欧州三井住友銀行社長を務められた一流のバンカーであり、また日本総合研究所において、経済分析や個別企業の課題分析をされているという意味で、困難に直面している当社をグローバルな視点も含めた広い視野でご覧いただき、経営の最高意思決定機関であり監督機関である取締役会の議長をおつとめいただきたいと考えたからです。

なお、木本氏は、後ほどご紹介いたします藤塚英明氏とともに、当社の取引銀行出身の方ですが、社内の常勤取締役として、当社内部から経営を監視監督していただきたいと思っています。

次に、取締役候補として、藤塚英明（ふじづか・ひであき）氏、56歳を指名させていただきました。藤塚氏は、当社の準メイン行である三菱東京UFJ銀行の執行役員をつとめられ、現在は同銀行関連の不動産管理会社である千歳興産株式会社の取締役社長であります。同氏は、三菱東京UFJ銀行において、通常の本支店業務のほか総務や広報も担当されており、管理部門に高い知見をお持ちですので、新経営体制における徹底したコーポレートガバナンスの中で当社グループ会社を含めた組織・人事管理や広報IR、そしてコンプライアンスといった部門をリードし効率的かつ適切な組織体制、管理体制を構築いただきたいと思っています。なお、同氏の担当分野には、財務経理部門は含まれないことを申し添えます。

同じく取締役候補として、竹内康雄（たけうち・やすお）氏、55歳を指名させていただきました。竹内氏は、当社執行役員ですが、これまで主として経理や企画畑を歩んでいます。また、海外駐在歴が長く、欧州や英国の子会社役員も歴任しております。竹内氏には、長年の海外経験で培ったグローバルな視点と、経理や企画畑で培った財務経理分野の知見を生かして、主に当社の財務経理部門の責任者として、今回のような問題が二度と起こらないような事業運営に取り組んでいただきたいと思っています。

同じく取締役候補として、林繁雄（はやし・しげお）氏、54歳を指名させていただきました。林氏は、これまで主として生産技術や生産管理の分野を担当し、当社執行役員であるとともに伊那の工場長や長野オリンパス社長として長野地区の生産構造改革に携わってきました。林氏には、ものづくりの現場に近い場所に長くいたことから、ものづくりの視点、現場の視点を今後の経営に生かしていただきたいと考えております。

次に、指名委員会が指名した社外取締役6名のご紹介をさせていただきます。

まず、社外取締役候補として後藤卓也（ごとう・たくや）氏、71歳をご紹介します。後藤氏は、花王株式会社の代表取締役社長、取締役会会長を歴任され、現在は日本マーケティング協会会長を務められています。後藤氏のご経歴は言うまでもありませんが、花王において経営責任者ご在任中、増収増益を達成し続けた名経営者であります。経営の第一線から退かれていたところを、無理にお願いをして社外取締役として経営陣に参画いただくことになりました。後藤氏からは、その豊富な知識とご経験を生かして、当社の経営全般、特に営業やマーケティングに関して貴重なアドバイスをいただけるものと期待しております。

次に、社外取締役候補として蛭田史郎（ひるた・しろう）氏、70歳を指名いたしました。蛭田氏は、旭化成株式会社の代表取締役社長を務められ、現在同社の最高顧問であります。昨年12月、当社の経営改革委員会委員に就任いただき、以後これまでの間、経営全般にわたり貴重なアドバイスをご提供いただきました。その卓越した経営手腕と指導力を経営改革委員会のみならず、今後の当社経営にも生かしていただきたいと思い、指名委員会からお願いして新経営体制に参画いただくことをご承諾いただきました。

次に、社外取締役候補として藤田純孝（ふじた・すみたか）氏、69歳を指名いたしました。同氏は、伊藤忠商事株式会社において代表取締役副社長、同副会長を務められ、現在は複数社の社外取締役をされているほか、日本CFO協会の理事長でもあります。藤田氏には、長年にわたる財務分野・CFOとしての知識経験を惜しみなくご披露いただき、当社財務部門における管理の徹底や財務体質の強化に向けて提言いただくとともに、総合商社で磨かれた国際的な感覚に基づく貴重なアドバイスをいただきたいと思っております。

次に、社外取締役候補として西川元啓（にしかわ・もとよし）氏、66歳を指名いたしました。同氏は、新日本製鐵株式会社において常務取締役を務められ、その後弁護士として主に会社法務の分野で活躍されています。当社の経営改革委員会の委員としても、昨年12月以来、貴重なアドバイスをいただいて参りました。今回、蛭田社外取締役候補と同様、法務やコンプライアンスの観点から、引き続き当社の新経営体制の一員として有益なアドバイスをいただきたいと思い、就任を依頼し、ご承諾いただいております。

次に、社外取締役候補として今井光（いまい・ひかり）氏、62歳を紹介いたします。同氏は、メリルリンチ証券の日本法人副会長を務められた後、株式会社レコフの前代

表取締役社長としてM&Aの仲介業務に携わってこられました。今井氏には、当社の今後の事業戦略策定において貴重なアドバイスをいただくとともに、グローバルな視点をもった経営へのアドバイスも合わせていただきたいと思っております。

最後に、社外取締役候補の藤井清孝（ふじい・きよたか）氏、55歳を紹介いたします。同氏は、投資銀行やコンサルティングファームで活躍された後、外資系企業の日本支社やベンチャー企業の代表者として経営の最前線で手腕を発揮しておられます。藤井氏には、国際ビジネスやM&Aの専門家として、経営へのアドバイスをいただきたいと思っております。

最後に新任監査役の紹介をさせていただきます。

常勤監査役候補として、斎藤隆（さいとう・たかし）氏、60歳を指名いたしました。斎藤氏は、現在当社の常務執行役員ですが、人事労務畑といった管理畑が長く、会津オリンパスをはじめとする子会社の役員を歴任しております。人事労務の仕事や子会社役員で培った管理監督能力を今回監査役として生かしていただきたいと思い、社内出身の監査役として指名させていただき、承諾を得ております。

社外から招聘する監査役候補として、清水昌（しみず・まさし）氏を紹介させていただきます。同氏は、現在54歳で日本生命保険相互会社の財務審査部部長を務められています。海外駐在歴も長く、多数の海外子会社を抱える当社の監査役としてまさにうってつけの人材であると考えております。清水氏には、常勤の監査役として適切な経営監査体制の構築の中心人物として活躍いただきたいと期待しております。

同じく社外から招聘する非常勤の監査役候補として、名古屋信夫（なごや・のぶお）氏を紹介いたします。同氏は、公認会計士として、みすず監査法人で代表社員を務められ、会計監査に豊富な知識と経験を有しておられます。監査体制の充実が求められている当社にとってまさにうってつけの候補者として指名させていただきました。

同じく社外から招聘する非常勤の監査役候補として、名取勝也（なとり・かつや）氏を紹介いたします。同氏は、弁護士として、これまで日本アイビーエム、アップルコンピュータ、サンマイクロシステムズ、といった企業で企業内弁護士として活躍され、知的財産分野にも高い知見を有しておられます。経営にも知見のある弁護士の立場から、当社のリスクについて厳しい目で監督いただき、今回のような不祥事が二度と起こらないようにアドバイスいただきたいと思っております。

少し長くなりましたが、新任の取締役・監査役候補者は以上となります。

#### 4 役員候補者の構成等

既にお気づきのとおり、今回の役員候補者は大半を社外の方をお願いしています。そして、就任後も社外取締役・社外監査役となっただけの方が過半数を占めているのが最大の特色です。これは、言うまでもありませんが、取締役会を含むガバナンスが本来の機能を十分に果たしていなかったことが損失計上先送り等の問題を引き起こしたことの反省を踏まえて、社外からの厳しい監視の下で透明性のある経営により再発防止を図るためであります。また、多様な経験を基礎とする英知を結集して当社を再建していただきたいと思いますと考えたからでもあります。

最後に、当社のように混乱からの再生を図る会社の指名委員会委員を務めた感想をひとことだけ申し上げたいと思います。

私ども指名委員は今回の一連の不祥事の原因は、本業が苦境にあったとはいえ、関係した経営トップが当社の基本であるものづくりを逸脱して財テクに走り、その失敗を糊塗するために経理操作を行いM&Aを悪用したことにあったと考えます。新経営体制の人選にあたってはものづくりの原点に立ち返って経営を行うこと、倫理性に裏付けられた強いリーダーシップを持った候補者であることを出発点としました。

限られた時間の中、多数の候補者と面談する一方で利害関係者のさまざまなご意見をお聞きしました。これらを通じて、多くの皆様がオリンパスという会社の事業、技術を高く評価していただいております、当社の真の再生を望んでおられることを強く感じました。

今回の新経営体制においては、いわゆる「独立取締役」と呼ばれる会社と全く利害関係のない社外取締役が取締役会の過半を占めるという強力なガバナンスの枠組みを作っています。6名の社外取締役はいずれも各方面で多彩、豊富な事業の経験を有しておられます。その厳しい目に耐えうる経営をしていくことが新執行部に求められます。新経営体制においては取締役と執行の緊張関係の中で、全社一丸となって会社再生と失われた信頼の回復に向けまい進していただくことを強く望みます。

## 5 社長就任予定者の挨拶

### (1) 自己紹介

私は、1982年4月に当時のオリンパス光学工業株式会社、現在のオリンパス株式会社に入社いたしました。最初の配属は内視鏡の開発部門でした。以後、アメリカ駐在を含め、ほぼ30年間にわたり一貫して内視鏡を中心とした医療部門で経験を積んで参りました。2005年には、内視鏡の開発部門の本部長となり、2007年から現在まで、医療部門全体のマーケティングを担当する本部長としてグローバルな販売戦略の推進にあっております。開発部門では、常に新しい事に挑戦する機会に恵まれました。

1990年代に米国において、感染症対応のために医療機器に対する洗浄消毒効果についての規制が強化されました。業界としても初めてのことで、試験方法から評価基準まで一から考える必要がありました。試験のための実験棟も建て、様々な実験の結果、私どもは、いち早くこの規制に対応した評価手法と判断基準を開発することができました。これは軟性内視鏡における洗浄消毒試験の基礎技術となっております。また、当社主力製品である消化器内視鏡システムの企画開発においては、2回にわたってリーダーを務め、ドクターの方々から高い評価を頂いた先端技術の導入を実現しました。

一つはNarrow Band Imaging - 狭帯域光観察機能を搭載した内視鏡システムです。この技術は本年度の社団法人発明協会「内閣総理大臣発明賞」を受賞した技術ですが、がんの栄養補給路である粘膜表層の毛細血管や粘膜微細模様などを、色調の違いとして強調表示するものです。これにより、がんの早期発見、病変の悪性度や範囲診断などができるようになりました。そして、内視鏡を使った低侵襲治療の拡大を加速させつつあります。

もう一つは、ハイビジョン内視鏡システムです。皆さんがご自宅のテレビで経験されたように、ハイビジョンシステムの画像は、高精細で一度見てしまうと二度ともとの古いテレビには戻れません。内視鏡の場合でもハイビジョンの高精細な画像が観察性能を向上させ、さらに正確な診断や安全な手術が実現されました。その結果、一度テレビでも起こったように、内視鏡のハイビジョンシステムは極めて高い評価を受け、システムの更新が大きく加速しました。どちらもオリンパスが世界で初めて導入したものです。

その後は、マーケティング本部長として、自ら開発したこれら製品のマーケティングを担当しております。より多くのドクターの方々に製品の良さを理解いただくために、機器の訓練施設などを設けて、多くのご支持をいただくまでになりました。

このように、私は、当社医療事業で最も挑戦を必要とする分野を担当させていただきました。また開発からマーケティング、販売まで幅広い経験を持っております。

指名委員会からのご指名には、驚きもございました。しかし私の経験が評価されたことを大変光栄に思いました。また、私自身、会社を再生したいという強い思いがあり、ご指名をお受けすることにいたしました。

私は、オリンパスの再生の為には、長期的なビジョンとして医療事業を中心とした「利益ある成長」が不可欠であると考えています。今後、皆さまのご指導をいただきながら、オリンパス再生にまい進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## **(2) 信頼の回復**

次に、当社が取り組むべき課題について現在、私が考えていることをいくつかお話しいたします。

今回、発覚しました損失計上先送りや、それに関連する一連の問題で、多くの皆様に多大なご迷惑をおかけし、会社の価値を大きく損なうことになりました。ステークホルダーの皆さま、ご迷惑をおかけした皆さまには、会社の一員として深くお詫び申し上げます。

そして、私に課せられた使命は、一刻も早く、毀損したブランドと、皆さまからの信頼を取り戻すことであります。そのためには、二度とこのような問題が起こらないように経営の仕組みを抜本的に改革することが必要です。そしてその仕組みの上で既存事業を見直し、さらに強い事業と財務にしていくことです。

## **(3) ガバナンス体制等**

まずガバナンス体制の改善のために必要なことは、執行と監督の明確な分離であると考えています。さきほど来間委員が発表した取締役会の役員候補者は、構成員の過半数が独立性の高い社外取締役となっています。取締役会を執行部門から明確に分離することによって、経営の監視機能の強化を図ることができると考えます。

また、取締役会の議長は、執行の責任者である社長とは別の者が務めるべきであると考えています。具体的には、会長が取締役会の議長を務め、社長他の執行部門に対す

る牽制機能を十分に発揮すべきであると考えます。次に、経営の監督を実効あるものにするためには、執行機関に対する監督機関の権限や機能を強化することが必要です。例えば、取締役や監査役候補者の指名や、各取締役の報酬決定は、過半数を社外取締役で構成する独立委員会に委嘱することも有効です。社外取締役や監査役の選定についても公平性を確保し、選任された方々の役割や機能を拡大することも、課題として認識すべきだと思います。そして、ガバナンスを有効に機能させるには、適時かつ積極的な情報開示も重要だと考えます。内部統制の強化については、東京証券取引所から特設注意市場銘柄への指定を受けた際にもご指摘をいただいているところです。各方面のご指導をいただきながら強力に進めていきます。

#### **(4) 事業と財務の強化**

次に、事業と財務の強化についてです。当社の経営と業務執行に責任を持つ者は、事業と財務を強化し、ステークホルダーに価値を還元していくことが重要な使命であると考えております。

私は、事業上の経営課題は次の三つに集約できると考えております。

まず一つ目は、規模を求めて拡大してきた事業ポートフォリオの再検証です。これは、企業買収を含む過去の投資を検証し、今後の投資判断の仕組みを見直すことも含んでいます。第二に、事業構造・収益構造の見直しが必須であると考えています。そして第三に、安定した財務体質を早期に回復することです。

これらの経営課題については、今後、その解決に向けて新経営陣と共に一体となって取り組んでいきたいと思っております。極めて重要かつ困難なことでありますので、充分かつ幅広い討議と検討を重ねる必要があります。

臨時株主総会においてご選任いただいた場合には、他の役員と協力し、これらの課題の解決にまい進し、当社再建のために全力で経営にあたって参りたいと思っております。関係の皆様におかれましては、ご理解を賜り、ご信任をいただきたいと思います。

## **6 現任役員 の 辞任**

最後に、現任の取締役及び監査役について高山より御説明します。

指名委員会と経営改革委員会の皆様には、非常に短い期間に集中的に取り組んでいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。両委員会の委員の皆様

のご尽力により、本日、役員候補者を決定し、発表することができました。いずれも当社の今後を託すにふさわしい方々であると考えております。そして、本日発表した候補者が臨時株主総会において選任されれば、必ず当社の再建を成し遂げてもらえるものと思います。

私ども現任の取締役及び監査役は、かねてより、当面の危機対応に取り組んで再建の目処をつけた上で「しかるべき時期」に交代すると申し上げてきました。この条件は、新しい役員が臨時株主総会で選任されることで十分に整います。したがって、現任の取締役及び監査役は、全員、臨時株主総会の終了時をもって辞任することとし、本日、その旨の辞表を提出しましたのでご報告します。

以上のとおりです。皆様におかれましては、今後ともよろしく当社をご指導のほどお願い申し上げます。

以上